

一番うれしいことは作品を読んでもらえること

第16回啄木・賢治のふるさと岩手日報
随筆賞 奨励賞受賞

西山綾乃さん

にしやま・あやの 19歳 小福田



平成14年生まれ。岩手県立大1年。スノーピーが好きで、文房具を集める。趣味は音楽を聴くことで、好きな曲はYOASOBIの群青。尊敬する人は盛岡第三高在学中に文芸部のコーチだったくどうれいんさん。慎重な性格で、何事も「石橋を叩いて渡る」派。

友達との何気ない会話やその日の天気からさまざまなことに思いを巡らせる様子を書いた作品「虹の話」で第16回啄木・賢治のふるさと岩手日報随筆賞の奨励賞を受賞した西山綾乃さん。「うれしいけれど、反省点も多くなる。半々くらい」と喜びを噛みしめつつ、次の作品作りへの意欲を燃やす。

文芸を知ったのは中学3年生のとき。盛岡第三高文芸部の生徒が全国高等学校文芸コンクールで最優秀賞を受賞した新聞記事を読み、興味が芽生えた。同校に進学し、部活の雰囲気よさの後押しもあって文芸部に入部。小説、随筆、短歌、俳句などさまざまなジャンルの文芸を学び始めた。中でも、自分が見聞きしたことを読み手に届ける随筆と短歌を得意とし、随筆は1年時に6月から4カ月かけて執筆した作品で第33回全国高等学校文芸コンクールの優秀賞を受賞。短歌は1、2年時に全国高校生短歌大会



岩手日報随筆賞の奨励賞受賞スピーチをする西山さん

に同校の大将として出場し、1年時に準優勝、2年時に特別審査員賞を受賞した。県から全国まで多くの賞を受賞するものの「結果よりもいろいろな人に作品を読んでもらえることの方がうれしい。身近な人から感想をもらえると、次がんばろうと思える」と読んだ人の声を謙虚に受け止め、執筆のエネルギーにする。

ネタ帳とノートパソコンを持ち歩き「就活を始めるまでは色々なジャンルを執筆し、読んだ人が引き込まれるような作品を作り続けたい」と高校時代より増えた自由に使える時間を文芸に注ぐ。生活の一部といっても差し支えない執筆活動を「大学の学業と両立させたい」とにっこり笑う。

【広告】

いぼ、癌、免疫系等
薬のプロフェッショナルがあなたのご相談を承ります
漢方のあさひ薬局 西根中学校前店
公認スポーツファーマシスト 国際中医専門相談員 認定実務実習指導薬剤師 薬剤師 齋藤貴将
八幡平市大更24-1-118(西根中学校前) TEL.0195-70-2311

■編集後記

▽田山小の水生物調査を取材。絶好の川遊び日和でした。長靴とサンダルを持ち取材に臨みましたが、川は海パンがはしくなる深さで、川に入っただけで断念。とても暑く、靴下を脱ぎ裾を膝までまくってサンダルで取材した結果、足の甲が真っ赤に。日焼け止めの塗り忘れを後悔しました。
▽サマーキャンプ大会を取材しました。当日は、雨が降ったり止んだりとジャンプするにはちょうどいい？天気でした。競技開始前に私もミディアムヒルのジャンプ台の一番上まで登ってみましたが、恐怖心と運動不足で足がガタガタと震えていました。改めて選手たちの凄さを実感しました。
(雅)